

## 第4回 サイバーポート検討WG（港湾・貿易手続）議事録

【日 時】 令和元年 11 月 22 日（金）13:00～15:00

【場 所】 日本消防会館 5階 大会議室

【議事内容】

- (1)「港湾関連データ連携基盤」の構築に向けた要件定義について
- (2)今後の進め方について
- (3)アプリケーションシステム(CONPAS 等)とのデータ連携について
- (4)意見交換
- (5)閉会

事務局である港湾局から、各議題について資料説明を行った。「港湾関連データ連携基盤」の構築に向けて、同基盤の要件定義内容及び今後の進め方案の検討を行った。各委員からのコメント及び回答は以下のとおり。

### (1)「港湾関連データ連携基盤」の構築に向けた要件定義について

〈A委員〉

データ連携基盤の内容がより具体的になり、イメージがしやすくなった。資料には NACCS との連携の方法が記載されているが、(NACCS と)やり取りをするデータの項目や単位についてお聞かせいただきたい。また、操作の伴うデータ連携は、当面とのことだが、自動データ連携がいつ実現するのか、NACCS 側開発計画と整合したロードマップを示していただきたい。

〈事務局〉

今後の設計、構築で詳細部分を検討していきたいと考えている。

〈B委員〉

特定の業務(フォワーダー業務など)に特化した GUI を用意して頂きたい。他の関連業界にも当てはまるが、業務内容によっては、API よりも GUI の利用が多くなる可能性がある。

〈事務局〉

その方向で検討を進めていきたい。

〈C委員〉

標準データ項目は、現行の NACCS 業務をベースにご検討頂いていると思われるが、語彙整理において、一部のデータ項目と NACCS の入力項目の間に齟齬が見られた。引き続き、語彙の整理を進めていただきたい。

〈事務局〉

項目の整理については、まだ少し精査する部分が残っていると考えている。引き続き確認をとって、構築、検討に移っていききたい。

〈D委員〉

国際安全輸送の観点から質問したい。輸出については IMO が定める条約により、登録者が(VGM 確定重量の)入力をおこなう。輸入については、IMO 未加盟国からの貨物を取り扱う場合、どの項目を入力することになるのか教えていただきたい。また、コンテナターミナル内で得た重量情報を、データ連携基盤を通して伝達することは可能なのか。可能であれば港湾の安全輸送に大きく貢献すると思われる。

〈事務局〉

指摘された点については、現状の帳票に記載され、伝達されている項目が反映されると思っていただきたい。いただいた意見については、別途詳細を伺い検討内容に反映していきたい。

〈E委員〉

NACCS の連携についてイメージが掴めない。シングルウィンドウでの入力は可能か。

〈事務局〉

現状考えているのは、既存のシステムで NACCS と連携している方は、現時点の入力方法のままで良い。そうでない方(GUI 利用者等)は、NACCS 入出力用のファイルを出力できるようにしたいと考えている。NACCS と連携しているシステムを持っている方は、現状と変わらず NACCS を利用できる認識である。

〈F委員〉

VGM 情報については安全上、非常に重要な項目になる。この項目を制限領域の情報として取り扱うのか、公開領域の情報として取り扱うのか、また二つの領域にアクセスする場合、アクセス性に差が出るのかをお聞きしたい。安全情報(VGM 情報、危険物情報等)については、複数の関係者が現場で確認できるよう、お願いしたい。

〈事務局〉

非常に重要な意見である。詳細な内容を伺いながら、今後の検討を進めていきたい。

## (2) 今後の進め方について

〈A委員〉

プロトタイプについてお聞きしたい。自社の取引相手が参加すればやる意味があるので、それを考慮して実証試験を行っていただきたい。また実証試験の計画、シナリオ、結果については公表されるのか。

〈事務局〉

プロトタイプ実証の詳細については各委員、及び設計業者と協議を重ねながら決めていきたい。公開、非公開については、委員の方々のみに公開する可能性はあるが、(プロトタイプ実証の)ユーザーと話しながら決めていきたいと考えている。

### (3) アプリケーションシステム(CONPAS 等)とのデータ連携について

〈E委員〉

外来シャーンが実入りコンテナを搬入し、コンテナヤードを出ずに空コンテナを受け取りヤード外へ搬出する場合、CONPAS 上で認識することは可能か。

〈事務局〉

現在、CONPAS については利用者を拡大し、試験運用をしている段階である。各種データが揃えば、そういった意見を反映できるようになると考えている。

〈G委員〉

港湾データ連携基盤と CONPAS の連携については早期に実現していただきたい。実際のターミナルゲートの運用を見学し、荷主として海貨への貨物の情報伝達をしっかりとしなければならない。データ連携基盤を通して搬入票も含め電子化すれば非常に効率的になると強く思っている。また CONPAS については横浜港以外でも運用するのか。

〈事務局〉

ご指摘の通り、CONPAS との連携を早期に実現したいと思っている。来年度末の本格運用を目指していきたい。CONPAS については、他港でも運用できるよう検討を進めている。

### (4) 意見交換

〈G委員〉

今年後半から来年にかけて検討する、規約、料金のあり方、運営組織は非常に重要な事項である。資料は非公表となっているが検討には事業者を入れていただければと思う。

〈事務局〉

草案については事務局で作成するが、各事業者にしっかりと意見を聞いて反映していきたいと思っている。多くの利用者に使用していただくのが、このデータ連携基盤の最も重要な点である。

〈H委員〉

港湾関連データ連携基盤の基本的な考え方は、シングルウィンドウで情報を伝達することであると思う。同時に各業界で情報量を減らすことができないのか考えるべきである。情報量が減れば上流で入力する手間も省ける。例えば NACCS の ACL 業務で伝達される情

報である、B/L 上の荷印(ケースマーク)については海貨からファックスで送られてきた PDF を基に船社が再入力をしている場合がある。これでは電子化とは言えない。しかし、これをそもそも入力しなければならないのかという根本的な疑問がある。アメリカ税関では、24 時間ルールにおいてケースマークは入力必須項目に入っていない。

〈事務局〉

そういった意見があることは考慮したい。データ連携基盤については、現在帳票で扱っている情報を誤りのないように伝達することを、基本としている。項目を失くす場合、損害を被る方が出れば問題となる。いずれの場合にしても各事業者と協議を重ねて進めていきたい。

〈I委員〉

補足だが、現在各団体に対応いただいている各帳票における頻出項目及び必須項目の確認作業は、GUI 表示内容への反映を直接的な目的としたものではあるが、結果として、関係者間で情報連携が行われる情報項目の精選にもつながるものと考えている。

〈G委員〉

CONPAS については税関の検査を想定していない。NACCS とデータ連携基盤の連携が確保されるのであれば、そういった(CONPAS 上の税関検査の)対応が可能になれば良いと思う。

〈事務局〉

今後の課題として検討したい。CONPAS と連携する上で、そういった新しい課題が見つかると考えている。

〈J委員〉

データ連携基盤と、AIターミナルの取組み(暗黙知、RTG 遠隔操作化、蔵置場所最適化等)の時間的な関係を知りたい。アプリケーション側はリアルタイムで、取り扱う情報を更新しなければならないのか。

〈K委員〉

リアルタイムの定義は難しいが、基本的には作業を止めて、データを更新するという事はないと考えていただきたい。例えばダメージチェックのデータが取られれば随時、データが更新されていく。その他の作業が止まるようなことになれば、(サイバーポートである)意味がない。そのようなことがないように設計されていくと私は考えている。

〈L委員〉

CONPAS についての感想であるが、東京港の混雑が激しい現状で、来年は東京をオリンピックもあり、予約制を導入して機能するかが不安に思っている。将来的には一極集中を分散するようにならなければならないと感じる。ハードでの対策も考慮しなければならない。

以上